

第2回史跡小田原城跡八幡山古郭・総構保存管理計画策定委員会 議事概要

日時：平成20年11月27日（木）14：30～16：00

場所：小田原市役所 大会議室

出席者：学識経験者 小和田委員長、小笠原委員、勝山委員、小林委員

市民代表 石川副委員長、今泉委員、市川委員、瀬戸委員、福田委員、立木委員

関係機関代表 本多委員、川久保委員、柳川委員（代理）、守屋委員

オブザーバー 井澤主査（神奈川県生涯学習文化財課）

1 開会

2 教育長挨拶

3 前回欠席委員挨拶

4 議題

1) 資料説明（途中区切りごとに質疑応答）

現況について

- ・今回、新たに百姓曲輪を入れた理由は？新たに調査する予定などがあるのか？道路から見ても土塁等がありそうに思えるが？（立木）
すぐというわけではないがこれから調査していくことになる。

保存管理について

- ・「ふさわしくない土地利用」は「遺構にとって望ましくない土地利用」という表現の方がよい。（小笠原）
了解した

整備活用について

- ・観光振興は必要だが、生活の場所に観光客が増えること（騒音・安全面など）を配慮する必要がある。（立木）
留意していく

2) 全体的な意見交換

- ・全体的なつながりの考え方の整理はだいぶ良い。（小笠原）

保存管理について

- ・今回の提案では、保存管理については「古郭・総構についても史跡指定を進めていく」ことを宣言することは大きな話である。（小林）
- ・史跡指定と遺構の公有地化は必ずしも対で考えなくても良いのではないか。史跡指定は「地籍」単位なので、調査をきちんとせずとも周囲を含めて積極的に史跡指定してはどうか。（小笠原）

整備活用について

- ・アクティビティの再構成については、それぞれのカテゴリーに引きずられすぎないよう。場所によっては全ての要素を含む場合もある。個々の地区の現実の特徴に即してほしい。

具体的には、

展望箇所の追加：谷津御鐘ノ台の民地駐車場、徳川陣場、山ノ神の突端（一定の平地もあるのでイベントに活用）、旧アジアセンター（一夜城の顛末の説明付きの案内板の表示）の対応

回遊ルートは具体的に想定していくべき（例：旧アジアセンター～大堀切～稲荷森への南北ルートもある）

「学び」は旧アジアセンターの展示内容の充実のほか、各所に史実エピソード付きのガイダンスを設置することも大切。

また、小峰御鐘ノ台展望台は「水ノ尾口」ミズノオグチという名称を使ってほしい。(小笠原)

- ・ 北条五代記のような「やぐら」のようなものはつけれないか(立木)
調査、環境、周辺整備が整った段階で考えればよいだろう。(小和田、小笠原)
- ・ 整備活用については、現在は、大事なポイントを確認しつつある段階。次にこれらをネットワークしていくことを考え、やがて面的な広がりへと考えていくような段階的な整備イメージを持つことも大事ではないか。上記の視点からみると、今回の整理は観念的すぎる嫌いがある
具体的には、次のような整理が必要
眺望が見える場所、ダイナミックな遺構を感じることができる場所等の整理
観光エリアと住宅地の仕分け
回遊ルートを想定したときの活用の課題 等について
何が見えるか、どこを歩くのか(フリンジ、土塁) 誰が、駐車場、休憩所、緑道(フットパス)、道路アクセス、観光客の動線などについて検討していくことが重要。
また、これらについて本格的に対応するためには、都市計画的な対応を含めた提案が必要だろう。(小林)
- ・ 観光という視点からは、駐車施設の確保も重要。バス駐車場及びバスを降りてからの観光ルートも検討すべき。(例：旧アジアセンターの中、競輪場の臨時駐車場など数カ所。ルートの上の方で卸して下の方で迎えるプログラムなどが考えられる)(小笠原)
- ・ 緑の中にある遺構は魅力的であるが、「緑を感じる」と表現すると、森林公園のような緑地課が主体になっているような誤解を招きそう。(小笠原)

その他

- ・ 地元は史跡があることを知らない。認知度を高める必要がある。知れば遺構の保存に協力してくれるのではないか(今泉)
- ・ 基本的な考え方としては(遺構について)「まず知らせていく」ことが重要。個々の場所をどうするかは、委員会の場の議論ではない。委員会の議論をベースとして個別対応になるだろう。(小笠原)
- ・ ガイド協会では地域の人に地元の歴史を知ってもらうための交流会を7年間開催してきた。毎年市内外から約3千人がやってくるイベントとなっている。(立木)
- ・ ある程度まとまった段階で地元説明をしてほしい。(今泉)
次年度は地元説明会を予定している

5 その他

- ・ 次回の委員会は3月頃、その間専門部会で検討する。
- ・ 測量を開始する。

以上

委員会後の市民代表との意見交換

- ・ 素人には内容が難しい。地元には知らせるときには「北条五代百年の要、小田原城には外堀がある！」程度の誰でも分かる言葉で「総構」を伝えていくことが大切。
- ・ 住宅地図で表示できるぐらいではないと現実感がない。その上で、固定資産税の緩和など指定のメリットデメリットを提示してほしい。よくわからずに同意してしまいそう。
- ・ 80年この地で生きてきて、史実は知っていても遺構が広く残っていることなど今まで知らなかった。地域住民はもっと分からない。
- ・ 総構全てを観光すると長すぎるのでは。せいぜい城とセットで2時間ではないか。
- ・ 観光として見せるためには草ぼうぼうでは問題。もっと手入れをしないと見せられない。
- ・ 説明版と案内表示の設置が必要。
- ・ 総構の調査等はケーブルテレビで放映して、宣伝してはどうか。

以上